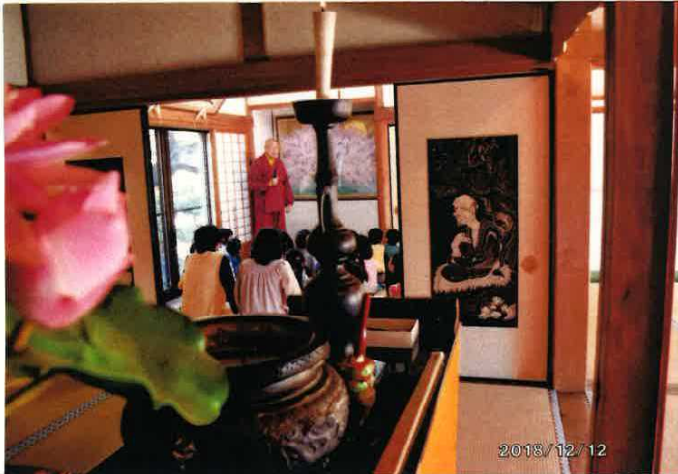


環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事 高橋 賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
(渋川福祉センター内)
TEL 0561-51-2878



2018/12/12

ここから
入と言葉
を掛け合う
ことを挨拶
というように
なった。
「行脚」
雲水が修行
のために諸國
に師を拜し
求めて歩き
回ることに
洞光院で
住職さん
様の絵に
て説明も受ける

日頃何気なく使っている言葉には本来禪の用語だったものがある。
語源を知らば言葉にふくらみが増し会話が楽しくなる。
更には禪への関心が高まり物の見方も一変する。
挨拶「挨拶は積極的に向ける姿勢は切りに込めていくこと。禅では弟子の悟りの深さを試すための問答のことを「挨拶」という。

今も連綿と日本人の心の底に流れる禅の教え



2018/12/12



▲写真上 洞光院本堂で「けん玉の技」は披露する年長組。中「けん玉宿題最後の日」年中組に見せる先輩年長組。下「けん玉」宿題証をもらう年長組園児。7年贈り物張りまじり。



2018/12/12

大きな声で自己の心境を示すこと。
相手の本心に迫るところから「喝破する」といって「喝する」という語が生まれた。
「けん玉」
玄關の境地(玄旨)に至る関門。禅院の入口に「玄關」という額を掛けたところから一般化した。

▲洞光院 院長組筆禅の目



▲最後のけん玉十分間に集中力。

